



加藤 元の



と暮らして
みませんか

8

飼い主は、犬に対してよきリーダーでなければなりません。群れ社会でもファミリーの中でも犬はいつもリーダーを求めています。リーダーがいないと、犬は心理的に落ち着かないものなのです。

飼い主がよきリーダーになつてあげないと、犬は自分がリーダーを演じたくなります。犬を散歩させている人で、よく引き綱に引っ張られて歩いていてる人を見かけます。飼い主は犬を散歩させているつもりでも、犬にしてみれば、自分がリーダーとして人を散歩させているのです。犬が飼い主に従わないのは、同じ心理なのです。では、リーダーはどう振る舞え

リーダー

犬がよいことしたらほめて

ばいいのでしょうか。リーダーは常に犬から注目される存在でなければなりません。リーダーが犬の名前を呼んだり、注意を喚起したい時、犬は必ずアイコンタクトして応えることができなければなりません。食事や水も、必ず飼い主がごほうびとして与えます。こうして、犬は飼い主をリーダーとして認めるようになるのです。

飼い主も、リーダーとして「私が与える」という意識を持つて食事を与え、犬と接するようにしてください。こうしたメッセージをしっかりと伝え、犬がリーダーの要請にうまく応えることができたら、ほめてあげ、ごほうびを与えるようにします。

散歩に行く場合も同様です。犬には「お座り、待て」をさせて、玄関でも門でもまずリーダーが犬より先に出てから犬が従います。

こうして犬はリーダーに従うことで、うまく社会生活ができるようになります。「お座り」「ふせ」「待て」「おいで」もリーダーの指示とごほうびで覚えていきます。

人間の子どもたちにとっても、親（大人）がよきリーダーになつてやらなければなりません。よいことをしたら、すかさずほめてあげましょう。しつけは繰り返しなのです。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長、
日本ヒューマン・アニマル・ボンド・
ソサエティ会長）

《産経新聞2004年5月23日掲載》